

◆クラブテーマ◆

「八重山の未来へ奉仕しよう」

会長：黒島 剛 副会長：大浜 勇人 幹事：吉田 貴紀 副幹事：松田 新一郎

公共イメージ委員長：山下 暢 SAA・出席委員長：玉城 カ

クラブキャッチコピー：島のリズムで伝える平和と奉仕のくる(心)

今月のロータリーレート 1\$¥114

島素材の産物

～島の素材を活かす知恵と技～

【夜香木】

夕暮れ時に花がひらき、独特の香りを放つナイトジャスミン。石垣市商工会婦人部が資生堂と共同で企画販売を手掛けた「ぬちがふう石垣島オードパルファム」が 2015 年「第1回香り-1グランプリ」プロダクト部門で準グランプリ_優秀賞を受賞したことは記憶に新しいことと思います。島の日常は自然の恩恵をいろいろな場面で享受しています。触れることのない自然素材もまた島の宝です。

[資料協力:石垣市商工会女性部]



SERVE TO
CHANGE LIVES

奉仕しよう みんなの人生を豊にするために

2021-22 年度 RI テーマ

RI 会長：シェカール・メータ

地区ガバナー：若林 英博 氏

「世界で、日本で、地域で良いことをしよう」

☆大きな目標と5項目☆

1. 新型コロナウイルスで困っている人々を支援しよう
2. ポリオ根絶に向けて頑張ろう
3. 元気なクラブになろう
4. 会員増強・クラブ拡大をする覚悟をもとう
5. ロータリーの公共イメージをアップさせよう

12月のプログラム 12/8(水) ゲスト卓話:米盛 長広 様(株式会社アクティブ) 12/15(水)IM大会のため休会

例会日 水曜日 12:30～13:30
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島(0980) 83-3311
TEL/FAX (0980) 83-2917
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

☆会員総数:45名 出席義務会員数:44名

☆出席人数:27名 欠席人数:17名 出席率:61.36%

《司会進行:玉城 カ》

☆ロータリーソング:君が代 四つのテスト

☆ソングリーダー:今西 敦之

☆メークアップ:森田 安高

会長挨拶:黒島 剛



今日は、ロータリーで忙しい半日でした。10時から理事会、11時からクラブ協議会、それから例会という形になっています。慌ただしく理事の皆さん本当にお疲れ様です。ありがとうございます。改めて若林ガバナーのお話を聞かれたと思いますが、ガバナーが基本としている、世界のため、日本のため、地域のために頑張らしようというテーマがありますが、それに石垣RCとしては、それに乗っかって活動しているということで感謝の気持ちも頂きました。特に今回は、HPを変えましてロータリアンが見るHPではなくて一般の方も見て楽しいような八重山の紹介があったり写真や映像があったりと、いま山下委員長が作って頂いてこれも高評価を受けました。逆に東京も真似をさせてくださいというお話も頂いて嬉しく思っています。来月は、名護でIM大会があります。従来であれば全員でIM大会に行き盛りのところでしたが、コロナ禍ということで各クラブから3名の代表を決めて下さいということで、石垣RCからは、私と吉田幹事、山下委員長と3名で12/15のIM大会に行き我々の活動報告をしてきたいと思います。今回、我々は「水辺の美化プロジェクト」でゴミ拾いを行いました、いま遅れているのはオープン例会です。コザRCや宮古島RCなどはもう終わってしまっていて、2回目に入ろうかということになっているそうです。そのオープン例会をすることによって沖縄全体で20名ぐらいの新入会員が入ると松島ガバナー補佐が仰っていました。我々も会員を増やしていくために2月のオープン例会を準備していますが、今のところ6人ほどのメンバーがこの会場に来てロータリーの活動を見て頂いて、卓話者に楽しい方と呼んでやっていきたいと思っていますので、皆さんの良い知恵がありましたら教えてください。今日はメルレ祐子さん、ご主人のメルレクラスさんありがとうございます。卓話期待しています。ありがとうございました。

◆◆◆幹事報告:吉田 貴紀◆◆◆

八重山毎日新聞社代表取締役社長の垣本徳一様が、本日の理事会において入会の承認がされましたのでご報告させていただきます。新春の交換会のチケットが残り4枚となっております。お求めの方はよろしくお願い致します。地区補助金の

与那国プロジェクトですが、2021/1/19(水)に日程が決定致しました。与那国の教育長にいろいろ調整を頂きまして、与那国中学校と久部良中学校が合同で16:15~16:35の約20分ですが、私たちメンバーに寄贈する太鼓を使って披露して頂けることに決まりましたのようしくお願い致します。JTAの飛行機に乗って多くの会員で行かせて頂きたいと思います。移動例会となりますので出来れば1泊で、もしくは日帰りになると思いますのでどうぞ宜しくお願いします。先ほど、クラブ協議会がございまして、若林ガバナーとZoom・ハイブリッドで会議をいたしました。石垣RCの活動を各委員長から報告をいたしまして、若林ガバナーも非常に喜んでいましたことをご報告させていただきます。12/22は年次総会並び忘年会を予定しております。次年度の活動も含めまして、また今年度の会員の活動の労いと共にみんなで楽しんでいきたいと思っていますのでふるってご参加のほどよろしくお願い致します。



◆ ゲスト卓話:メルレ祐子 様 ◆ (ルフトハンザドイツ航空客室乗務員)

テーマ:石垣島の魅力について



ただ今ご紹介に与りました、メルレ祐子と申します。この度は恐れ多くもロータリークラブという高貴な場所にお招きにあずかり、大変に光栄に思いますと共に、私のような者が石垣島を語って良いものか、と大変恐縮しております。まず最初に私の自己紹介をさせていただきます。宜しくお願いいたします。私の出身は東京で、カレッジを卒業する年の1986年に、外務省の在外公館派遣員制度に応募して合格しました。その年の10月にアメリカ合衆国テキサス州の在ヒューストン日本国総領事館に2年の任期で赴任いたしました。1988年10月に帰国して本省に戻ってからは、中近東アフリカ局アフリカ第1課というセクションに在籍しておりました。その後、兼ねてから夢を描いていた航空業界に転職しまして、1990年に外資系航空会社のキャビンアテンダントになります。最初に入った会社がパキスタン国際航空でして、成田ベースとしてアジア、中近東、中東、アフリカ、ヨーロッパをワールドワイドで乗務し、その後、1992年にルフトハンザドイツ航空を受験して移籍しました。ベースはドイツのフランクフルトで、フランクフルトとミュンヘンを発着とする日本路線を専門に乗務しておりました。この度約30年乗務したルフトハンザドイツ航空を定年退職し、パキスタン航空時代と合わせて計32年間の乗務生活を終え、ようやく地上に下りました。私共夫婦は20年くらい前からダイビングをするために石垣には年に2、3回は訪れておりました。実は2014年からすでに住民票を石垣に置いて家を借りていたもので、休暇ごとにドイツと石垣を行ったりきたりする生活を長いことしていたというわけです。私の定年後は石垣島に完全移住するという計画通り、ドイツの自宅も引き払い主人共々この9月23日に完全に移住しました。今回石垣島の見どころ、石垣島の魅力、というテーマを頂いたわけですが、私の場合は観光客として見た石垣島の魅力、それからダイバーとし

て見た魅力、それと石垣市民として 見た魅力、この3つから語ることができると思います。観光客として感じる石垣島の魅力は、とにかく海が美しく、冬も温暖で、食べ物美味しく、また八重山には沖縄本島とは明らかに違う沖縄があるということでしょう。石垣に来た観光客は誰でも行くと思われるメジャーな観光地とは別に、あまり世間には知られていないものの、実は石垣って知られざる歴史的事実がたくさんあって、それらを順に繋げて辿っていくと、とてつもなく奥深い興味が湧きます。内地から修学旅行にいらっしゃる高校生には石垣の自然だけでなく、本来ならこういうところも是非見て知ってもらいたいと思うのですが、なかなかそこまではいかないようで残念です。私の本家の親戚の子が高校生の時、修学旅行が石垣島に決まったと連絡をくれました。旅行計画書ができたらずい見せてー！と言っておいたらメールで送ってくれたのですが、それを見て「え？わざわざ飛行機乗って、何しに石垣に来るの？」と言うような内容の旅程で驚きました。唯一良かったのは八重山農林高校の郷土芸能部との交流会のみ。内地の学校の先生たちもよく知らないからこんな計画しか立てられないのかもしれないですけども、ランチの後にはビーチでバナナボート、なんて言うのも勿論それも良いですけど、石垣の秘めた面白味を知ることができないのは残念でもあります。今でこそ内地でも沖縄料理屋がありますし沖縄料理もポピュラーになってきましたけれど、私が若い頃はゴーヤなんて知りませんでしたし、ナーベラ、つまりへちまって食べるものだと思っていませんでした。私たちの時代は小学校3年生の理科の授業でへちまを栽培をしたんですが、これってたわしになるものだと思っていたので、沖縄に来て初めてナーベラチャンプルーを食べて、この世にこんな美味しいものがあったのか、とカルチャーショックを受けた記憶があります。それと石垣の赤米には心の底から心酔しておりまして、私の定年退職の同僚たちへのお祝い返しに、石垣から赤米 75 袋調達し、それをイリオモテヤマネコ・エコバッグに入れ、泡盛 20 本と共にフライトごとに同僚たちと手分けしてドイツに運びました。私が定年した後、ドイツ人同僚たちが日本人同僚たちに「祐子って知ってる？石垣島ってすごいところらしいね。一度行ってみたくて彼女に連絡が取りたいんだけど、どうやったらいい？」って言って来るそうです。私のダイバー歴はかなり長いんですが、海には男性型の海と女性型の海があって石垣の海は、まさしく女性型の海と言えます。癒しの海ですね。潜ってみるとそこにはとんでもない世界が存在します。世界中の海を潜ってきましたから、迷わず言えるんですが、石垣の海ほど人の心を癒す海はないです。そして石垣の珊瑚は世界一だと思います。新城島や米原に珊瑚の綺麗な私の好きなポイントが点在しているんですが、もし日本昔話が本当に存在するのであれば、あそこは間違いなく竜宮城です。絶対に乙姫住んでます。それから石垣の目玉と言ったらダントツ、マンタですね。マンタはダイバーにとって夢と憧れの魚と言われますが、マンタって1枚見

られただけでラッキーな魚なんです。マンタが見られるのはもちろん石垣だけではなく、例えばモルディブやハワイ、タヒチのボラボラ島なんかでも有名ポイントはあるんですが、じゃあ石垣のマンタがどう違うのかというと、一箇所に6、7m級のマンタが何枚も来てホバリングするんです。マンタシーズン中で海況が良ければ遭遇率99%って、これ自体すごいことなんですが、そこでこんな光景を見られてしまうなんていうのは最高の贅沢です。何年か前でしたけれど、20枚くらい出て「今日ってマンタ祭りですか？」と思うほどの壮大な海底ロマンを目の当たりにしました。残念なことに島の人たちはあまりダイビングをなさらないので、石垣の海底の神秘を熱く語ってもピンと来ないかと思うんですが、皆様一度潜った方が良いでしょう。もしロータリークラブの皆様のためにそういう機会を作れとおっしゃるなら、私は明日にでもオルガナイズし来年のシーズン中に1日押さえます。この石垣竜宮城をひと目見てしまうと、ただ「海が綺麗だよね」っていうだけじゃなくてこの海を守りたいという気持ちが生まれます。この八重山の自然の海を破壊する可能性のある要素が一つでもあるなら、私は声を上げることでしょう。それから石垣は離島にありながらも生活の便利さを備え持つ島であるということ。まず病院がある。これは大事です。これまでも私も多くの外国人ダイバーたちに石垣島の紹介をしてきました。私はドイツにいた時、趣味の範囲でですがダイビングサービスをやっていたので、八重山の海をヨーロッパのダイビング雑誌にも紹介したし、実際に石垣島や与那国で潜りたいという問い合わせが多々あって、ショップや宿泊施設を紹介したりしましたが、そこまでできたのは石垣島に病院もクリニックもあったからです。日本の捕鯨が世界中から叩かれていた時には、私も色々言われました。「鯨を食ってる国に潜りに行こうとは思わない」とか言ってきた人もいて、すかさず「馬鹿言っちゃいかん、沖縄は琉球王国だ。一緒にすんな」って切り返したら、日本には王国が存在すると思い込んだ人もいるみたいですけど、ドイツにも昔はバイエルン王国という誇り高き独立国家がありました。私の中では琉球王国は誇りです。それから石垣にはスーパーマーケットがあり、外国人でも滞在中に食事に困らないレストランが多くあるということ。やはりある程度の都市化した環境が整った場所でないとい日本人でも辛いかもしれません。たとえば私の主人はドイツ人ですが、日本食が大好きでなんでも食べられます。毎日毎食和食OK、ホテルの朝食ビュッフェでも納豆を取ってくる人です。でも、誰もがそういうわけではないですから、たとえ楽園のように美しい島だったとしても、もし、スーパーもコンビニもなく、食事は泊まった宿でしか取れず、「朝」納豆ご飯、「昼」もずく井ぶり、「夜」鯖の味噌煮、というような食環境だったとしたら、外国人観光客を誘致できるかって言ったら無理です。今石垣島に住む外国人は675人だそうです。食生活に困難が生じる島だとしたら、ここまで人が集まらないのではないのでしょうか。一方で、観光業を本格的に手掛けて東洋のハワイを

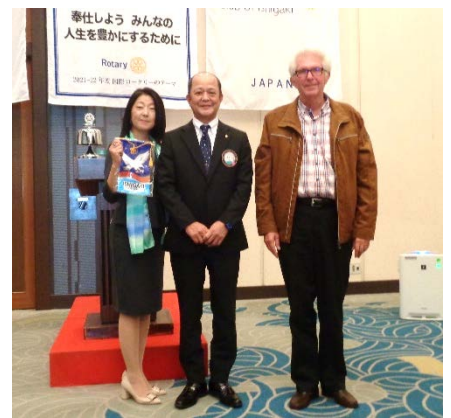
目指す、というのであれば、これは改善の余地は多々ありますね・・・。石垣にはハワイになれる要素が十分あるにもかかわらず、でもハワイになれない、その原因がやはりあるんです。海外のリゾート地を散々見て来た人間には一瞬に見えてしまう。この改善改革に乗り出せとおっしゃるなら、喜んでお手伝いしたいと思います。次に、では石垣市民として見た島の魅力。これだけ長いこと島に通っていれば島の友達も多くできます。彼らを通して、また実際に生活の拠点を置いてから見えてきた石垣の魅力というのは別の方向にあります。私がすごいなと思ったのは、まず集落ごとにそれぞれ異なる歴史、文化、習慣、言語があり、それが今なお生活の中に息づいているということです。それぞれの村には村の誇りがあり、村の伝統を引き継いで行こうとする魂が宿っていますね。この地元愛というのは凄まじいインパクトがありました。こんな故郷を持っている人たちが羨ましいとも思いました。それから「同級生」に対する特別な思い。これは友人たちの話を聞いていても、同級生という言葉がよく出てきて、つくづくそう感じるのですが、いつまで経っても同級生との絆が切れることなく続いていくというのは都会育ちの私にしたら羨ましく思います。都会じゃ大概、卒業すれば皆散ってしまい、散った先々での新しい生活が忙しすぎて、地元に戻って同級生たちと集まり地元のために何かをする、なんてこと考える余裕すらないほど皆が時間に追われてます。私も自分の地元で一体同級生が何人残っているか、どこにいるかなどわかりません。子供は島の子、島の宝という思いから島民皆で子供を育てる、というのも、私が子供の頃は東京でも「子供は地域で育てましょう」みたいな風習がかるうじてあったみたいですが、今の都会ではもうなかなか感じるもののないものです。今、都会では人の家の子供を注意しようもんなら刺されることすらあるらしいからあまり関わるのはやめた方が良く、と身近な人には言われます。だから高校を卒業して島を離れても、何かの折には皆が一斉に故郷の島に帰ってくる島の子が戻って来た、と近所中が喜ぶ。島の人達の望郷の念が島の一人一人の心で繋がっているというのは、石垣島の魅力をさらに引き立てる要素になっていると思います。それゆえに沖縄県人の絆は海外に行っても強いんだと思います。実は昨年、私と主人はドイツ沖縄県人会のメンバーになったんですが、入会したきっかけとなったのがオンライン配信で行われた昨年の石垣島祭りです。私たちもドイツの自宅で見たいんですけども、BEGINのライブで比嘉栄昇さんが「僕たちもブラジル公演ではブラジル沖縄県民会の人たちにお世話になったよなあ」みたいなことをちょっとおっしゃったんですよね。で、へえ、外国に沖縄県人会なんてあるんだー。ドイツにもあるのかなと思ってすぐにネットで調べたら、あるじゃないですか！入会する条件というのが、沖縄県出身者に限らず沖縄に住んだことがある、沖縄に自分のルーツがある、とかなんでも沖縄に関するコネクションのある人ならOKと書いてあったんで、じゃあ石垣に住民票を置いている私たち夫婦も入れ

るかもな・・・と思って、東京出身、ドイツ在住の石垣市民なんですが入れてもらえますかね、と書いて送ったら、速攻でそのドイツ沖縄県人会の会長さんという女性から連絡がありまして、自分は石垣の登野城出身だと言うんです。私のメールを読んであまりにもびっくりしたんで直接連絡したくなってメールしたって言うんですよ。ぜひ会に入っちゃってください！って言われて夫婦で入りました。彼女曰く、5歳まで登野城にいてその後那覇に引っ越したそうですが、うちの家族のことを覚えて下さっている方が今でも石垣島にいるかしら？ってことで、ご家族のことを話したんです。その方は外間久美子さんという60代後半の女性でドイツの音楽学校でピアノを教えたというピアニストなんですが、すでにお亡くなりになられたお父様は八重山高校で体育と音楽の教師をなさっていたという外間永律先生と言う方だそうで、石垣のほとんどの学校の校歌を作曲した方だそうです。で、大川出身のお母様は豊さんと言って103歳で今も那覇でご健在、母方の大叔母様が宮良殿内の家系を引く方で、戦後女性初の石垣市議会議員となった宮城文さんで、久美子さんも子供の頃は宮良のおばあちゃんと言って慕っていたとのこと。で、文さんのご子息が宮城信勇さんで久美子さんの叔父様ということでした。で、私も後で知ることになって驚くのですが、この方々というのは石垣では知らない人がいないというほど有名な方々だそうで、さらにここから奇跡が起こるんですが、久美子さんの話を通して私共が石垣で親しくさせて頂いている友人や知人たちと驚異的なつながりのある方々が次から次へと発覚しまして、ドイツにいるっていうのに、石垣島を通じてこんなに人と人が繋がっていったというのは、これは「石垣島」に引き付けられたとしか言いようがないです。これ以上の話をすると何時間あっても足りないので省きますが、こんな奇跡を呼ぶ島を「魅力」と言わずになんという・・・。これまで私は石垣島を通して出会った人に出会い、得るべき人を得ていたのだ、と思います。今年の3月13日にドイツのエッセン市という街で東日本大震災10年復興支援メモリアルコンサートというのが開かれて、そこで外間久美子さんがピアノを演奏したんです。これもコロナのため、石垣島祭りに同様にオンラインで行われたコンサートだったんですが、その彼女が選んだ曲というのが宮良長包なんです。自分の音楽の原点というのは故郷石垣島の宮良長包の音なのだ、と言って「えんどうの花」を美術館が会場となったドイツで弾くんです。他に「山の子守唄」「泊まり舟」と3曲演奏しました。石垣島というのは国境を超えて故郷を思う心と人を繋ぐ絆、これがなんと美しいことかと思いました。これは八重山の海の美しさを越えるんじゃないかと思います。数年前ですが、石垣の高校生の男の子が、ある時私に言いました。自分は高校を卒業したら早く島を出て、都会で生活をしたいのだ、と。で、「メルレさん夫婦って、世界中を飛び回り、何ヵ国もの国に住んできて、それなのに何でまた石垣島に引っ越して来ようって思うの？」と。これからの時代、島の若い子たちはどんどん

外に出ていき外の世界を見てくることは重要なことだと思います。外の世界を見なければ石垣の良いところも悪いところも見えません。こんなこと言っているかわかりませんが、「ここが変だよ、石垣島」みたいなものいくらでもあるんです。でも、それも外の世界を見て初めて気づくことだと思います。彼らがいずれ島に戻ってきて、そこを若い力で改善改革して行ったら、この島はますます魅力的な島になるはずですよ。故郷というのは、100円入れておもちゃを取り出すガチャガチャと一緒に自分では選べません。が、第2第3の故郷というのは自分で作り出せるものです。私が20年以上石垣に通い続けたのも最終的に移住したのも、この島に魅力がなきゃするわけないんです。ドイツ人の主人は間もなく70歳を迎えようとしているのに、私と一緒に石垣島に移住して来ました。元ドイツ空軍士官パイロットで近代史を生死の境スレスレでくぐり抜けて来た主人は、定年した

今では本来なら母国の住み慣れた場所で悠々自適に余生を過ごしたいと思うのが普通です。それなのに、文化も習慣も言語も違う日本、しかも離島の石垣島に移住しました。相当の勇気だったと思います。しかし彼は、ドイツの自宅を売ってでも石垣島ならば引っ越しても良い、ここなら住みたいと言いました。東京に私の実家があるのに、東京に住むならどこでも同じじゃん、わざわざ引っ越してまで住む理由ってある？というんです。今回のこの卓話の機会を頂き、そのテーマを頂いて以来、私も改めてよく考えたんですが、石垣島というのは鎧兜を脱げる島、社会の荒波の中で戦うために身に纏った鎧兜をこの島に来れば脱ぎ捨てられる、ここでは構える必要も気取る必要もない、そんな気がします。だから島出身者は必ず島に戻ってくるし、我々外部の人間は身も心も休められる場所を求めてここに来るんだと思います。これが最大の石垣島の魅力ではないでしょうか。

～ 例会風景 ～



メルレ祐子様・メルレクラウス様 ご来会ありがとうございました。とても楽しい時間でした。



本日のニコニコ: ☆黒島剛氏: 理事の皆さん、クラブ協議会お疲れ様でした。又、メルレご夫妻、ゲスト卓話ありがとうございました。

☆上勢頭保氏: 本日の卓話に感謝です。 ☆宮良榮子氏: 先日は、誕生日のケーキのプレゼントありがとうございました。主人と二人でおいしく頂きました。感謝!! ☆南波正幸氏: 役員の皆様 クラブ協議会おつかれ様でした。 ☆橋本孝来氏: メルレ祐子様 卓話ありがとうございました。

☆宮城早人氏: 先日の新築祝に多数お越しいただき家族一同心より感謝申し上げます。いつでも遊びに来て下さい。

☆東上里和広氏: クラウスさま 祐子さま お忙しい中、卓話ありがとうございました。※ダイビングご一緒させてください(笑)

☆今西敦之氏: 上勢頭パスト会長お元気何より、人生で2回目のソングリーダー、音感がなくてすみません。

☆松尾和彦氏: 宮城さん新築訪問! すてきな自宅でした。 ☆新垣精二氏: メルレ祐子様 楽しい卓話ありがとうございました。

◆BOX ¥39,000 (累計 ¥160,450) ◆コイン ¥3,904 (累計 ¥31,030) 合計 ¥191,480



前木 繁孝 氏 19日(日) 砂川 和徳 氏 21日(火) 玉城 力 氏 21日(火) 遠藤 正夫 氏 25日(土)

